

○武井玲子*、永山升三**、伊藤紀之**

(*共立女大院、**共立女大)

【目的】地球環境保全を目指した家庭用化学品が「環境にやさしい」との表現で市販されているが、環境負荷に対する定性的もしくは定量的根拠が示されていることが少ない。そこで本研究では、まず「環境にやさしい」というキーワードに関連した表現やイメージを各種情報源より把握した上で、生活者の環境に対する意識と行動実態を調査し、環境負荷軽減の視点から生活者が選択できる定性的・定量的な環境表現の検討を実施し、生活者にとって環境負荷のより少ないライフスタイル提言のための基礎的な情報とすることを目的とする。

【方法】環境問題や環境表現に関する情報を収集・整理し、抽出した環境対応の行動に対する意識と実行度について、さらに環境表現に対するイメージおよび既報告の台所用洗剤容器のLCAインベントリ結果を加味した環境表現の理解度などの項目に関するアンケート調査を実施した。調査方法は質問紙郵送法とし、生活者(200名)、環境意識の高いことが予想される生活者(環境に関するボランティア活動を実施している50名)、小・中・高の教師(90名)を対象とした。

【結果】今回調査した対象者は、いずれも環境問題や環境表現に対しての情報を種々様々な媒体から入手しており、環境に関する関心は高かった。一方、環境に関する用語に対する理解度には、調査対象者間で差が認められた。環境表現として「環境に対してどの程度良いか悪いか」の指標は役立つと考えている生活者が多いが、LCA研究で表現されるエネルギー消費量や二酸化炭素発生量の指標よりはむしろ発生ゴミ量や種類、リサイクル原料の使用有無、などが役立つとしている対象者が多かった。そこで、台所用洗剤容器を例としてLCAインベントリ結果と生活者がわかりやすい環境表現についての相互の関連性を試みた。